

その他資料 2

生駒市立幼稚園再編について(案)

1 はじめに

令和2年10月に教育委員会が策定した「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」では、以下の内容を示している。

(1)望ましい規模を確保し、幼稚園に関する課題に対応するための具体的な方策

①認定こども園化

一部の幼稚園は存続しつつ、いくつかの幼稚園については認定こども園への移行を進める。

②民間活用について

認定こども園化を進めるにあたり、民間による運営も選択肢のひとつとして検討を行う。

③本市の公共施設の状況

「生駒市公共施設等総合管理計画」「生駒市公共施設マネジメント推進計画」を定め、令和41年度末までに24.5%の公共施設の延床面積の削減目標を掲げている。

④本市の財政状況

「生駒市行政改革大綱」において、今後5年間で10億円以上の経常経費の削減を掲げている。

(2)具体的な方策を実施する際に留意すべきこと

- ①通園が園児にとって過剰な負担にならないよう、また安全に通園できるよう配慮し、通園バスの運行区域の拡大や送迎のための駐車スペースを確保する。
- ②再編の時期については、在籍園児を考慮し柔軟に対応し、安心して過ごせるよう環境を整え、保護者に対しても丁寧に対応する。
- ③園と地域のつながりが継続させるよう努める。
- ④再編による園跡地及び施設の利活用については、市長部局との連携のもと、地域と協議した上で、市として総合的に検討する。(こども園化の検討も含む)
- ⑤特別な配慮を要する園児に対して必要な対策を講じる。

2 地域協議会からの意見書

幼児期の子どもの成長に応じた集団を維持するために、幼稚園再編の対象となる、なばた幼稚園、壱分幼稚園、俵口幼稚園、生駒台幼稚園のそれぞれに設置した地域協議会か

らは、主に以下の内容の意見書が提出された。

①生駒台幼稚園(8月6日提出) 最終回 7月13日(第4回)

当協議会としては、生駒台幼稚園と俵口幼稚園の再編を決定する際には、俵口幼稚園の地域協議会からの意見をできる限り尊重していただきたいと考える。その上で、生駒台幼稚園と俵口幼稚園を統合して、生駒台幼稚園をこども園とし、その際には、「協議会としての意見」を取り入れて進められたい。

②壱分幼稚園(8月11日提出) 最終回7月19日(第4回)

当協議会及び地域住民としては、市教育委員会の「基本的な考え方」をベースにして、現在、生駒市の行政課題となっている少子化に伴う就学前児童の減少、および保育ニーズへの需要の転換、これに伴う待機児童対策を考えると、なばた幼稚園と壱分幼稚園を統合して、一日も早く壱分幼稚園のこども園化を実現することを希望する。また、時間がかかるのであれば再編を待たずに壱分幼稚園単独でのこども園化を進めることを求める。

③なばた幼稚園(8月13日提出) 最終回8月6日(第5回)

当協議会の総意として、原案に反対する。保護者・地域の代表としてなばた幼稚園の存続、または、なばた幼稚園でのこども園化を求める。

④俵口幼稚園(8月17日提出) 最終回8月16日(第6回)

当協議会としては、俵口幼稚園の存続を求める。しかしながら、将来的に少子化や就労家庭の増加から地域の保育ニーズに対応する必要がある場合は、俵口幼稚園のこども園化についても具体的に検討されたい。

3 再編に係る論点

上記を踏まえ、再編に係る以下の論点について審議する。

(1) 壱分幼稚園、生駒台幼稚園に関すること

- ・こども園の運営主体について
- ・こども園の開園時期について

(2) なばた幼稚園、俵口幼稚園に関すること

- ・存続について